

ついて、以下のように定義されています。

「グローバル化が進展している世界の中で、主体的に物事を考え、多様なバックグラウンドをもつ同僚、取引先、顧客等に自分の考えを分かりやすく伝え、文化的・歴史的なバックグラウンドに由来する価値観や特性の差異を乗り越えて、相手の立場に立って互いを理解し、更にはそうした差異からそれぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、新しい価値を生み出すことができる人材」

少し長いですが、読んでみるとその内容はなるほどとうなずけるものにまとまっています。

次に、日本経済団体連合会の「2010 年人事・労務に関するトップ・マネジメント調査」にはグローバル人材の資質として以下のような回答が挙げられています。

グローバル人材に求められる資質として、とりわけ重要だと考える資質

- さまざまな価値観を持った従業員と意思疎通を図ることができるコミュニケーション力 (35.2%)
- 変化し続ける時代を見極め、常に問題意識を持ちながら働くことができる課題解決力 (26.4%)
- 多様な属性を持った従業員をリードすることができるリーダーシップ力 (23.5%)
- 机上で物事を考えるだけでなく、実際の行動に移すことができる実行力 (13.1%)
- 特定領域（経理、法務、財務、知財等）に関する専門的知識 (0.5%)

◆ グローバル人材の特徴

本校は、シリコンバレーと呼ばれるコンピュータ産業の中心地にありますが、私の周りには、イキイキと世界をまたにかけて活躍している正にグローバル人材と呼べる知人が数人います。その人たちに共通する特徴が2つあります。それは何だと思われますか？ 1つは、優れた言語能力とそれを生かすキャラクターや高いコミュニケーション能力を持っていること。もう一つは自分に自信があり自分のことがとても好き、同時に他人にとっても関心があり、人間が大好きであるということです。言い換えるならば「柔らかな頭と広い視野を持ち、どんな環境でも自分と自分の関わる人を活かすことのできる人」「I'm OK. You are also OK. という安定した人間関係構築の基礎を持っている人」です。そして、このような特徴を持っている人は、まず間違いなく、どこであっても自分のおかれた環境で楽しいいきいきと活動をしています。環境要因よりも彼らのもっている「人間力」の方が高いのがその理由です。



◆ グローバル人材を育てる環境

大人の話しでここまできましたが、ここからはいよいよ本題、こちらで育つ子ども達に目を向けて見ましょう。アメリカはご存知のとおり高度に多様化の進んだ社会です。言葉や文化、習慣も違う様々な人々が混ざり合って生活をしているため、違いやギャップは日常の中に無限に存在しています。その違いやギャップをクリアするためには、ルールの中で、自分の権利や主張をぶつけ合い、互いの合意が得られるまで問題の解決にとりくみ、一旦合意が成立すれば握手をして恨みっこ無し、というようなある種の型が必要です。海外、特にアメリカで生活している子ども達はこのプロセスを小さいころから何度も目にし、体験して自然と身につけていくのです。また、アメリカでは自分たち自身が外国人なのですから、様々な違いを肌で感じて生活しているはずですし、またその違いを認めてもらった、尊重してもらったという貴重な経験も豊富です。

アメリカでは、親も教師も子ども達に「あなたはユニーク（かけがえのない存在）で、愛を受ける価値のある存在です。」と繰り返し語りかけます。そしてその後に「あなたの隣にいる人も同じようにユニーク（かけがえのない存在）で価値のある存在です。だから大切にしてください。」と続けます。この考え方はキリスト教の教えにも通ずるところがありますが、民主主義の基本的な考え方にもなっています。そのような環境の中で、子ども達は次のようなことを、体験を通して学ぶのです。

- 世の中には自分と違う色々な人がいること。でも、それは素晴らしいこと。
- そんな中で自分の権利や主張をはっきりと相手に伝えることは大切なこと。
- 意見が食い違っても相互の主張をぶつけ合い合意点、妥協点に向かって歩み寄ることができること。